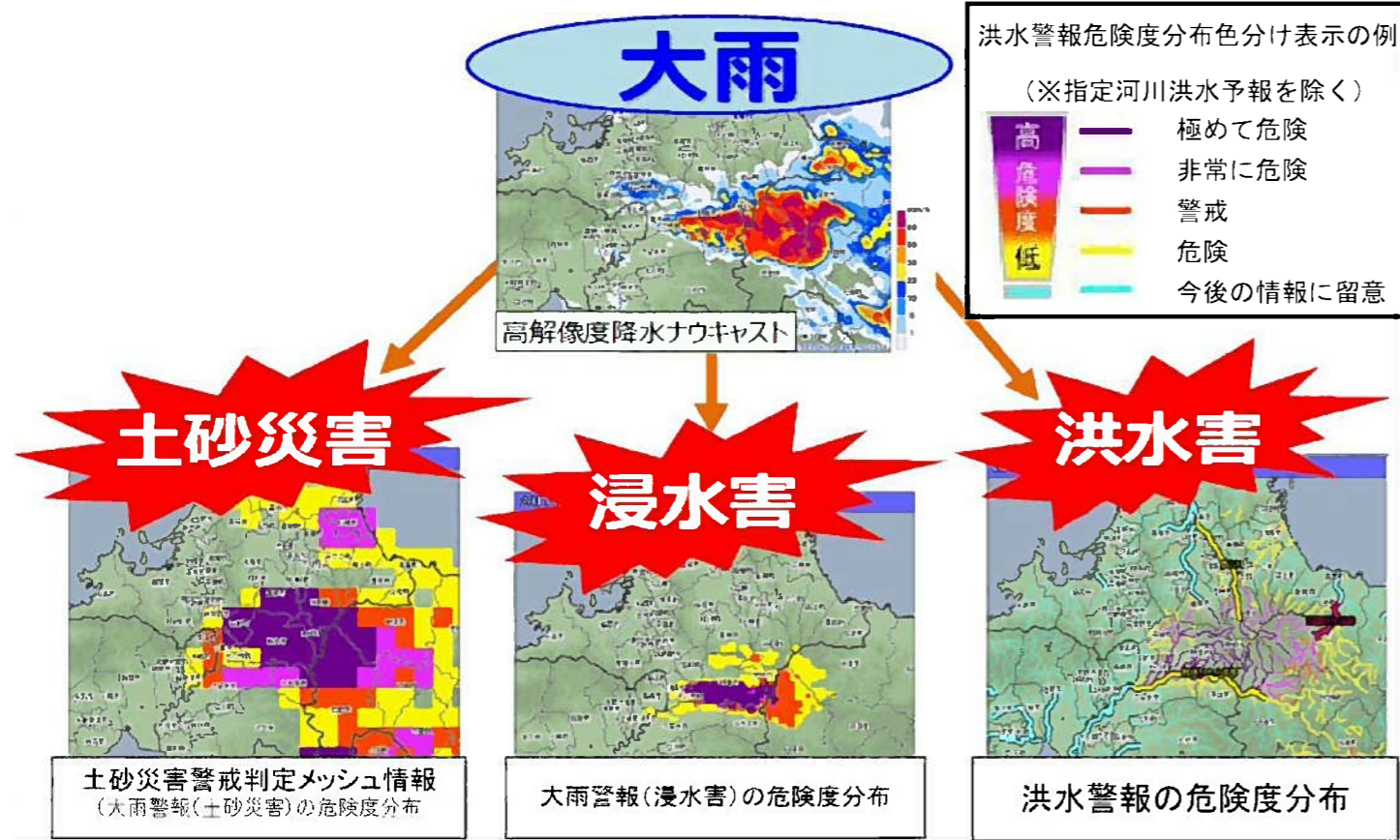


# 新しい防災気象情報について

危険度分布の提供（気象庁ホームページより）



気象庁では、警報と併せてどの場所で災害の危険度が高まっているか視覚的に確認できるように危険度分布を提供します。危険度分布は上記3種類あり、それぞれの災害発生に対する危険度を高い順に濃い紫⇒薄紫⇒赤⇒黄と色分けにより表示しています。これは過去の災害状況などを調査し、それぞれの災害が発生する基準値（警報レベル＝赤 注意報レベル＝黄）が市町村単位で設定されています。これまで降った雨と今後降る雨量などを予測した結果、基準値を超えたときに地図上に色分け表示されます。

濃い紫になりますと、その地域でいつ災害が発生していてもおかしくない状況です。特に各ハザードマップに掲載されている土砂災害警戒区域及び洪水浸水想定区域はそれぞれの危険度分布で濃い紫のエリアにかかるまでに避難行動の完了が必要です。平成29年の台風21号の際には、土砂災害の危険度分布で宮前区が濃い紫のエリアとなり、一部地域でがけ崩れが発生しました。

危険度分布では濃い紫となる約2時間前に薄紫エリアがかかり、この時点での避難行動が重要です。詳しくは危機管理担当までお問い合わせください。

「防災ニュース」に関するお問合せは、宮前区役所危機管理担当（856-3114）まで

バックナンバーは、宮前区役所ホームページ⇒安全安心のまちづくり⇒「防災ニュースのページ」でご覧いただけます。



# 防災ニュース

2019.3  
第38号

宮前区役所危機管理担当／宮前区まちづくり協議会防災部会

フォトレポート 7/8～7/20

## 平成30年7月豪雨に係る 広島県安芸郡坂町への職員派遣



# Photo Report

現地の様子（小屋浦小学校）

中国、四国地方を局地的に襲った平成30年7月豪雨に対する支援として、川崎市は「広域・大規模災害時における指定都市市長会行動計画」に基づく対口支援（たいこうしえん）の名目で危機管理業務、建物被災認定調査業務、全国都市清掃会議からの要請に基づく災害廃棄物収集運搬業務等を行いました。

当区危機管理担当からは3名の職員が広島県安芸郡坂町に派遣され、避難所運営等の業務を支援しました。

今回はその様子をレポートします！

平成30年7月豪雨に係る広島県安芸郡坂町への職員派遣

# Photo Report

## 1 対口支援（たいこうしえん）とは

大規模災害発生時に、被災市区町村ごとに都道府県又は指定都市を原則として1対1で割り当てることにより、担当する都道府県又は指定都市を決定し、応援職員を派遣する制度をいいます。

「対口」は中国語で「ぴったり合う」「ペアを組ませる」を意味し、2008年5月の中国・四川大地震で、中国政府が大都市等に支援対象の被災地を割り当てた「対口方式」を用いたところに由来し、日本では「被災市区町村応援職員確保システム」として全国規模で適用されました。

## 2 町内の様子

町内でも特に小屋浦地区の被害が大きく、地区を流れる天地川（てんちがわ）の上流で砂防ダムが決壊し、大量の土砂や流木が住宅に流れ込んだため15名の方が亡くなりました。

また坂地区の総頭川（そうずがわ）の上流では川岸が20～30m削り取られ、橋が流されていた箇所がありました。

派遣直後は、被災地域を中心にライフラインがストップ、交通網も国道31号線、広島呉道路、JR呉線が土砂で封鎖されており、船での物資搬送や仮設トイレの設置に奔走しました。

復旧の目途が立たないと思われた国道31号線も道路脇の駐車場を舗装して仮設道路を短期間で舗装、至る所に堆積する土砂に警察、消防、自衛隊が捜索活動、土砂の搬送を行う等各方面の総合力が示されました。

## 3 避難所の様子



避難所である小学校体育館



空き教室の避難スペース



文化センター内の避難スペース

派遣職員の業務は大きく分けて3つ、「町役場内に設置された災害対策本部の補助」と「昼と夜12時間の2交代で坂町職員の避難所運営の補助」と「町役場に届く支援物資の仕分けと避難所への搬送補助」でした。

坂町職員のほとんどが町内在住で地域に溶け込んでおり、避難者との関係は良好でした。支援物資の搬入、食事の配布、仮設トイレの清掃には中高生も積極的に参加しておりコミュニティの力を感じました。

また、全国から多くのボランティアが集まり今も支援が続いています。

9箇所の避難所に最大で約1,300人の避難者がおり、体育館では当初十分な空調が整備できず、避難生活も過酷な暑さとの戦いでした。一方で局地的な災害であったため支援物資、特に食事は比較的不足なく避難所に配布できた印象です。

もし、川崎直下の大地震が発生した場合を考えて、家族で話し合いをしましょう。



避難所への物資仕分け作業



トイレの清掃



ボランティアセンターの列

## 4 最後に

大雨特別警報等の避難情報に大丈夫だろうと避難が遅れ、救命ボートで救出され、認識の甘さを痛感したとの避難者からの声がありました。

また、行政に救助を求める連絡をしても災害が多発しているため、ほとんど対応ができなかったと聞いています。

宮前区でもこのような災害が何時起こるかわかりません。ハザードマップ等で危険区域を確認しておく、避難所までのルートを確認しておくといった日頃の備えが重要です。避難時の行動について再確認をお願いします。



船での物資搬送



土砂で埋まった国道等



自衛隊、警察の活動



町の様子 1



町の様子 2



緊急工事での道路開通